

私は、2025年12月20日、21日に新潟の朱鷺メッセで開催された、第3回新潟県リハビリテーション専門職学会にて、訪問看護での事例報告を行いました。

【発表を決めた経緯】

これまで、自分の行ってきたことを文章にまとめることや、人前で発表することに苦手意識がありました。しかし、上長や先輩から勧めていただき、今回発表を行うことを決めました。特に「今回の訪問看護での関わりはとても良かったので、ぜひ発表したほうがいい」という先輩の言葉が、大きな後押しとなりました。

【発表資料をまとめる上での苦労】

介入経過を振り返り、指定された文字数でまとめることに苦労しました。事例が伝わりやすい構成を考え、どの内容を残し、どこを簡潔にするかを何度も見直しました。

また、考察では先行研究や文献からの引用が必要であることを学びました。文献を探し、内容を理解することは大変でしたが、自分の実践を客観的に振り返る良い機会となり、考察に説得力を持たせることができましたと感じています。

【発表してみて】

「訪問看護による通院練習の取り組み—統合失調症患者の不安への寄り添いを通して—」という演題で発表を行いました。外来OTへ通う目標はあるものの、自宅近くのバス停を利用した経験がなく不安を抱いていた症例に対し、バス停までの移動やバス乗車練習を実施しました。その結果、自立を意識した発言が聞かれた事例を紹介しました。

今回の学会大会では身体障害分野の演題が多く、精神科分野の演題は1題のみでしたが、訪問看護ならではの関わりを発信できたことは貴重な経験となりました。

【おわりに】

今回の発表は、自分一人の力では成し遂げることはできませんでした。ご指導・ご助言をいただいた上長や先輩方、そして日々の臨床の中で多くの学びを与えてくださった患者様に、心より感謝いたします。

今回の経験を今後の臨床に生かし、根拠を持った支援が行えるよう、引き続き学びを深めていきたいと思っております。

